片貝新聞

発行所
片貝新聞社
〒947-0101
小千谷市片貝町10367-4
TEL　0258-84-3246
FAX　0258-84-2632
編集発行人　吉原芳郎
印刷所　吉原印刷㈱

題字　黒崎敬湶氏

JA片貝町
シンボルマーク
天の恵み地の恵み

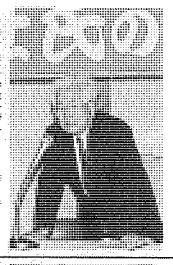
初企画アイディア満載で賑う
おぢや杜氏の酒談義盛会
駒谷氏の講演、美酒を楽しむ

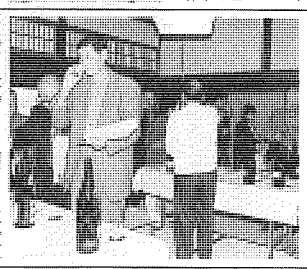
去る4月29日㈯午後1時30分から片貝公民館、小千谷市酒造杜氏組合主催の「おぢや杜氏の酒談義」が片貝ふれあい公園けやき園・忍字亭で開催された。

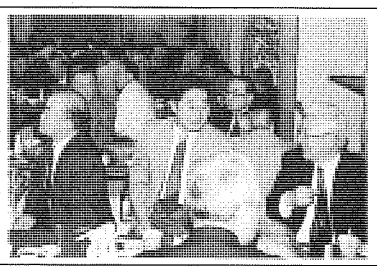
当日は好天に恵まれ、地元片貝を初め小千谷、越路方面から日本酒愛好家七十名前後が集まり、酒にかかわる話や、めったに味わえないおぢや杜氏自慢の新酒のきき酒など、三部構成で催された。

第一部は駒谷正雄全国良寛会参与・柏崎良寛貞心会副会長による「良寛も楽しんだ佐藤家の粟守酒」の講演。駒谷さんは講演の中で「良寛も大変酒が好きであったようで、酒をもらった時の良寛自筆の礼状が多くある。その中のひとつで良寛の亡くなる十ケ月前の文政十三年（一八三〇）閏三月廿八日付で［此春はあわもり、一箇たまはり、恭納受仕候、風味いまにわすれ難候］と宛名は不明であるが、粟守酒をもらった良寛の自筆の礼状がある。片貝にも良寛の足跡ありとする伝説もあり、佐藤家が良寛と親交があったと考えられ老境・多病の良寛に佐藤家が家伝の薬酒や清酒を贈ったのでは」と語っていた。

第二部は西牧一郎小千谷市酒造杜氏組合長の「おぢや杜氏の酒自慢」の講演後の「きき酒入門」では先日行われた第42回自醸清酒品評会に入賞した、十七種類の酒を使用して行われ、参加者はレベルの高い清酒の味と香を楽しんでいた。またこの後行われた「きき酒名人試験」では参加者全員が4組にわかれ、市販の清酒4種類で試験が行われ、8名の名人が誕生し、西牧組合長からそれぞれに、賞状が贈られた。


▲第一部講演中の駒谷さん


▶第二部きき酒名人試験


▶第三部美酒を楽しむ

第三部の「春のホロヨイ談義」では酒、春の山菜料理、おぢやソバを囲み酒談義に花が咲いたり、おぢや杜氏による「酒造り歌」、片貝の参加者による「木遣」等で交流会の会場は盛り上がっていた。また、忍字亭の松の間では江戸時代県内最大級の酒造家であった佐藤家に関係した、額「印證」粟守酒販売店の看板、粟守酒の徳利や盃、新酒が出来た時に、お天王様に榊と御駝走をお供えしたときに使用したお膳など酒造りに関する資料や品物三十四点が展示され、参加者の興味を引いていた。また、関係者は「今回初めての企画でしたが大成功でした。また来年もやってほしい…という声が聞かれましたので、前向きに検討します」と語っていた。

故浅田先生を敬慕し偲ぶ
雪庵忌の会が今年も
駒谷氏が先生の人柄を語る

故・浅田壮太郎先生（五ノ町）は、昭和57年4月27日、84歳で死去したが、生前親交のあった有志は雪庵忌の会（吉原芳郎会長）を組織、祥月命日に合わせ浅田先生を偲ぶ会を開いている。

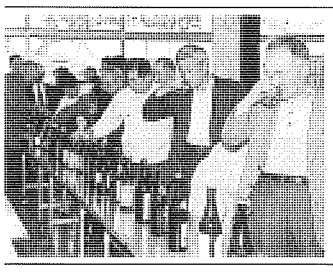
今年は去る4月24日、美好亭で開いた。昭和57年4月24日は、市民会館において小千谷良寛会総会と記念講演会が開催された日。雪庵忌の会のほとんどが、この日が浅田先生との最後に会った日となった。

良寛や禅の学問上のことで親交深かった駒谷正雄氏（柏崎市在住、全国良寛会参与、柏崎良寛・貞心会副会長）に毎回講師を依頼している。駒谷氏と吉原会長と有志数名は、この日事前に浅田家を訪れて仏前に焼香。

午後6時から美好亭で駒谷氏による講話。駒谷氏は「昭和57年4月27日は浅田先生とお会いした最後であった」と切り出し、あの日浅田先生の命により、駒谷氏が小千谷良寛会総会で記念講演会の講師を務めたが、その辺の事情を「当時、浅田先生を前にして講演をするのを皆嫌がった。引き受け手がいなかったため、先生は私に〝オマエやれ！〟と命じられ、〝良寛と鵬斎〟を講演した。浅田先生が亡くなられてからは、著名な先生方が続々にこられるようになった」と説明。続けて「浅田先生のところへは、良寛書の鑑定や箱書きの依頼が頻繁にあったが、雁作と見抜くと他の先生を紹介した。ある時、ある先生の家に私と浅田先生が訪ねると、浅田先生が断わった偽良寛があった。私は思わず声を出そうとしたところ、浅田先生は手で私を制し、〝りっぱな表装ですね〟と表装を誉めた。先生はいつも雁作に出会い、意見を求められると表装を誉め、それ以外のことには触れなかった」と詳しくエピソードを披露した。

続いて懇親会に移り「あの日は浅原神社の春季大祭だったため、先生に〝どこかでやりますか〟の誘いを断わってしまい残念のことをした」などと思い出話しに花を咲かせ、故浅田先生を偲んだ。

第42回自醸清酒品評会盛会
高野與氏の「吉乃川」が優勝



小千谷市酒造杜氏組合（西牧一郎組合長）主催の第42回自醸清酒品評会が、浅原神社春まつりの4月25日㈫片貝公民館二階ホールで開催された。

同品評会は毎年、清酒の仕込み作業が終わり、杜氏や蔵人が帰郷するこの時期にそれぞれが自醸清酒を持ち寄って開かれており、今年は81点が出品され、午前10時から審査が行われた。審査は青木俊夫・県醸造試験場主任研究員を審査委員長に、清水邦彦・原酒造㈱生産管理課長、茂木和夫・吉乃川㈱取締役製造部長、山下進・新潟銘醸㈱取締役開発研究室長、片岡惇・朝日酒造㈱取締役工場長の5名があたった。

最高賞の市長賞には高野與氏（山屋）の「吉乃川」（吉乃川㈱＝長岡市）が選ばれ、関広一市長から賞状と銀杯が贈られた。青木審査委員長は講評の中で「いずれも香、味とも素晴らしい出来で、優劣をつけるのに審査員一同苦労しました。どうかこの技術をずっと持続していただきたい」と語っていた。2位以下の成績は次のとおり。（敬称略）

②新潟日報賞＝新保英博（三仏生）「鶴齢」（青木酒造㈱＝南魚沼郡塩沢町）
③市議会議長賞＝郷六郎次（下坪野）「米百俵」（栃倉酒造㈱＝長岡市）
④小千谷市農協賞＝山賀健一郎（鴻巣）「麒麟」（下越酒造㈱＝東蒲原郡津川町）
⑤片貝町農協賞＝安達敏雄（一之町一区）「松乃井」（㈱松乃井酒造場＝中魚沼郡川西町）。その他片貝町関係の入賞者は川上孝一（鴻巣）「朝日山」（朝日酒造㈱＝越路町）、久賀源一（山屋）「巖」（高井㈱＝群馬県）、佐藤篤（新屋敷）「桂正宗」（㈲千野酒造場＝長野県）、高野實（池津）「ねのひ」（盛田㈱＝愛知県）、吉原正義（高見）「池錦」（池嶋酒造㈱＝栃木県）。

小千谷杜氏組合の実力示す
県品評会で3年連続団体優勝

新潟県酒造従業員組合連合会の総会が、去る5月23日㈫柏崎市産業文化会館で開催され、小千谷市酒造杜氏組合（西牧一郎組合長）と杜氏3名が表彰された。

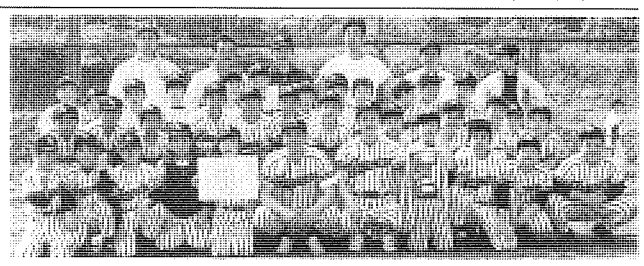
同組合は新潟市で開催された第33回自醸清酒品評会（新潟県酒造従業員組合連合会主催）で一昨年と昨年にひきつづき三年連続団体優勝の快挙を成しとげての表彰。また個人では▽最高賞一位の郷六郎次さん（下坪野）、▽三位の山賀健一郎さん（鴻巣）、▽五位の平澤至正さん（三仏生）が特別表彰を受賞した。「団体で三年優勝したことや特別賞10位以内に3名も入賞したことは、レベルの高い越後杜氏の中にあって、おぢや杜氏の技術が特に優秀であることが認められたことです」と関係者は語っていた。

市春季学童野球大会で
片貝ジャガーズが初優勝

第21回小千谷市春季学童野球大会（小千谷市野球協議会主催）が5月14日㈰午前9時から小千谷市白山多目的広場で開催され、片貝ジャガーズが初優勝した。

当日会場には、片貝ジャガーズ、和泉クラブ、城内DMクラブ、東小千谷少年団、岩沢ファイターズの5チームが参加して熱戦が繰り広げられた。片貝ジャガーズは準決勝で岩沢ファイターズと対戦して8対1で圧勝。決勝戦では前半リードされていたが、最終回に大量4得点を獲得、逆転して和泉クラブを10対8で敗り嬉しい初優勝を獲得した。

片貝ジャガーズは6年前に結成されたチームで、現在も小学校の4、5、6年37名が毎週2回練習を行っている。今年は冬期間の猛練習の成果が実り、チーム結成以来の初優勝となり、今月長岡市で開催される中越大会に小千谷市の代表として初出場、その活躍が期待される。なお、佐藤正美監督は「今回の優勝は子供たちがひとつに纏り、日頃の練習時の力が出せた。また中越大会でも優勝をめざして頑張りますので、応援をよろしく」と語っていた。



▼あつめま～すリサイクル＝リサイクル資源の再利用を目指して地道な活動をしている、リサイクルかたかいは、4日㈰午前9時から9時30分まで、今年最後の収集活動を片貝支所前で実施する。

主張

これからの片貝について

片貝新聞も本号をもって六十号となり曲がりなりにも五年間続いたことになる。

あれから五年、片貝はどう変わったのであろうか。この情報化時代の今日この地にも一つぐらいこうしたお知らせ的な媒体があってもというささやかな願いと、かっては文教の街として自他ともに認められた文化的なものへの啓蒙の一助になればとの思いもあった。

日進月歩の勢いで目まぐるしく変化する現代にあって五年という歳月は決して短い歳月ではなかった。事実この五年間をふり返ってみるといろんなことが浮かび上がってくる。

たまに片貝に帰省した人たちは町並みがあまりにも大きく変化したことに驚きを隠さないが、定住している我々にはそうした観念はない。この間数多くの出来事が起きては消えていったが、格別大事件というものもなく、敢えていうなら佐藤邸跡地が現実に片貝の人たちによって運営されるようになったこと、さらに片貝まつりが年々大がかりになりつつあること以外は、正直言って、あとは何事も衰退の一途をたどっているとみたほうが正しいような気がする。

協議会の運営やその他についても意見や希望を申し述べてきたが、反発を招いたことはあっても強化や前進につながったということもなく、なんだったのかと忸怩たる思いである。

しかし片貝に決して問題がないというわけではない。周辺道路ひとつにしても途中まで出来ているのにそのままのもの、或いはその問題を何処に持って行けば解決できるのか、その拠り所となるものがはっきりしていない。そのために協議会があるという意見もあろうが、これとて確たる権威もなく町内代表というのは名ばかりで、現在の横並び順番制という役員形態ではどうしても与えられた任期期間だけはなんとかという消極的な姿勢にならざるえず、片貝の将来にわたる政策や青写真を指し示すという、市内他地区でやっているような運動を展開するといった前向きの姿は見えてこない。

片貝にはいろんな団体があり夫々活動しているものの、横の連携とか連合体というものもなくてんでばらばらの状態である。もっとも現在は個の時代というか個人、個性が尊重され公というか団体としての立場は不必要とする学者もあり、その意味では片貝はいち早く近代的になっているのかもしれないが、かっての片貝を思うと寂しい気がする。

片貝周辺でも大型店舗が続々と出現し商店も著しく減り商店街の面影を失いつつあり、工業会とて例外に漏れず不況のあおりを食らって青息吐息といったところで明るい材料には乏しい。

せめてこの片貝に住むものだけでももう少し環境を整備し、心豊かに暮らしやすい生活ができるよう、将来ビジョンも含め組織、人間、形態がどうあるべきか再検討を要する時期にきているように思う。誰が鈴を付けるのか見守りたい。

かたかい春秋

待ち望んだ春がようやくやってきたと思ったら、今年は見事な桜。小千谷新聞四月二十九日号の一面の写真も、市報おぢや「小千谷を描く」No.152も片貝小学校の桜であり、嬉しくなった。そして目だけでなく心に優しい若葉が萌え出したかと思ったら、もう今はすっかり濃い緑。改めて自然の移ろいの早さ、そしてその見事さには心を打たれる。▼きょう6月1日は気象記念日だ。大きな季節の感覚の中でも、やはり小さなスケールである気象も我々人間の生活において重要だ。そしてきょうから衣替えでもある。白がまぶしく似合う季節を目の当たりにする。▼6月と言えば、中学生のスポーツ大会が行なわれる月でもある。陸上、球技を初めとする各種市内大会が始まる。片貝町民にとっては、何と言っても伝統のバスケットボールとバレーボールの活躍が気になるところか。先日、小千谷高校のバスケットボールが、県下でも指折りの強剛チームということを知り驚いた。片貝中出身者はその中にいるのだろうか、気になるところではある。▼競技とは別に昨今の健康ブームで、歩く愛好者が増えている。片貝でも早朝や夜間、歩いている人を見かけるようになった。歩くブームと相俟って、JA片貝町主催の健康ウォークもすっかり定着して、楽しみな大会となった。去る5月14日の第4回ウォークも、途中から陽が射すなど文字どおり薫風爽やかな中での歩け歩けとなった。もっとも参加無料で、あれだけいたれりつくせりの大会であるから、年々人気アップも当然と言えば当然ではある。だからこそ敢えて言うのであるが、JA片貝町は他との合併を出来るだけ先送りにしてほしいものである。

新緑の中を350名が歩け歩け

サービス満点ＪＡ片貝町

第四回片貝町健康ウォーク（ＪＡ片貝町主催）は、5月14日午前九時片貝小学校出発→片貝丘陵→宝徳稲荷奥社→帝国石油→もみじ園→巴ケ丘自然公園→越路原→片貝小の11kmコースで開催された。家族揃ってや仲間連れなど総勢350名が参加、中には乳母車も見られ、それぞれのペースで新緑の中を歩け歩け。

越路町の巴ケ丘自然公園を休憩場所とし、全員にスポーツドリンク（500㎖）と希望者にアメ玉を提供、ここでゆっくり休む人もかなりおり、早くも車座となり缶ビールで乾杯するグループも。

ゴールでは完歩証、記念品を受け取ってからウォーク汁（トン汁）がふるまわれ、ここでも缶ビールで乾杯するグループや、持参のおにぎりを広げる家族の姿も見られた。

参加者は「昨年と逆回りのコースで歩きやすかった」「11kmと手頃な距離であるため、子供と一緒でも参加が出来てよい」など評価する声が多かった。なお、片貝町体育協会、片貝町公民館、若杉歩こう会が後援、特に若杉歩こう会は20名が参加、まとまりのよいところを見せた。

商工振興会も6月18日にウォーク

片貝商工振興会（遠藤充会長）では第3回健康ウォークラリーを今月の18日(日)に開催する。今年も昨年同様ふれあい公園けやき園をスタート・ゴールでＡ、Ｂの2コースで行われ、出発は午前10時。完走ゴール後はけやき園で美味しい豚汁と冷たい生ビールで楽しい語らい。主催者では町民多数の参加を…と呼び掛けている。詳しいお問い合わせは商工振興会事務局へ。

サントリー文化賞ゲートボール大会　寺町ヤヨイが優勝

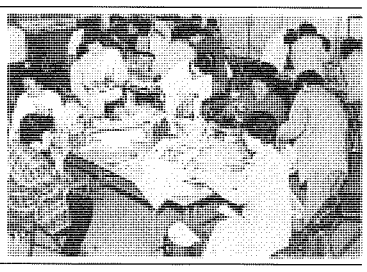
第15回サントリー文化賞受賞記念ゲートボール大会が去る5月18日(木)、片貝町ゲートボール協会（五十嵐常雄会長）の主催で、浅原神社ゲートボール場で開催された。

当日は天候に恵まれ、片貝町の各ヤヨイ会編成による、9チーム50名前後が参加して、午前9時から午後2時までAブロックとBブロックで予選リーグ戦が行われた。午後2時から行われた決勝トーナメント戦では、A・Bブロック上位2チームの計4チームで熱い戦いが繰り広げられた結果2戦全勝の成績で寺町ヤヨイ会が優勝した。五十嵐会長は挨拶の中で「これからも多くの大会がありますので健康に注意して、これからの大会にも、進んで参加してください」と呼び掛けていた。成績は次のとおり。①寺町ヤヨイ会（中野卓、小林計助、相崎良雄、相崎清一、小川政利）、②第二ヤヨイ会、③町裏ヤヨイ会

くらしの学級スタート

初回はフラワーボトル作り

片貝公民館主催の「くらしの学級」が5月18日(木)からスタート、11月9日(木)まで11回にわたりいろいろな催しものが計画されている（5月1日号に記載）くらしの学級は片貝町在住の女性を対象にしており、本年度は61名（昨年72名）の申し込みがあった。



初回の5月18日(木)は午後7時15分から約2時間、片貝公民館二階ホールで開講式と安達恭子さん（八島）を講師に迎えて「彩り鮮やかフラワーボトル」造りを実施した。

講師の安達さんの「花は必ず水を切る。完成時をイメージしながら高さを決め花束を作る。花を傷つけないように、花束をビンに入れる。シリカゲルを少しずつ、花がかくれるまで静かにビンの中にいれる。7～10日位で乾燥する。乾燥したらシリカゲルの新しいのと入れ替えをして、ラップをしてフタをする。日光にあてないでおけば、一年は保てます」などの説明後、参加者45名は、花、ビン、シリカゲル、ラップ、はりがねハンガー、飾り付け用ペーパーなどの材料を使って花の美しさを、そのまま空きビンに閉じ込める「フラワーボトル」に挑戦していた。関係者は「二回目のくらしの学級を忍字亭のルーツを訪ねてと題して、田所和雄さん（長岡市、略歴は4月1日号に記載）による『天明と天保の大飢饉と佐平治翁の遺徳』の講演会を今月の8日午後7時15分から、けやき園・忍字亭で開催致しますので、どなた様も気軽にお出かけ下さい」と呼び掛けている。

片貝ヒューマンウォッチング

読者魔の安達精二さん

二之町の安達精二氏（72）に登場願った。現在は奥さんと2人暮らし。3人の娘さんを授かったが、上から順番に小千谷、片貝、長岡に全員嫁ぎ、男3人、女3人の計6人の孫がいる。

片貝町役場から合併と同時に小千谷市役所職員に。商工観光課長などを歴任し、40年間の吏員生活にピリオド。その後、サンプラザの事務局長を二年、民間会社に4年勤めた。

市役所時代の思い出としては、中越地区の市（長岡、小千谷、見附、栃尾、柏崎、十日町）の新入職員研修会（県市長会主催）に於いて、2年間財政税制の講師を務めたこと。3時間半にわたり、制度の入口のことについて話すのであるが、毎年のように制度が変わるものであるから、講師を務めるにあたり、時間外で猛勉強すること10日間、今は懐かしい思い出だ。そして地元片貝出身でありながら、魚沼線廃止問題を手がける担当課長であったことだ。皮肉な巡り合わせであったが、歴史と地域と国策のジレンマを感じながら仕事をした。

地域に戻ってからは公民館長を務めるなど、地元への貢献を心がけた。伝統芸能保存会々長となったのもその延長線上にある。公民館長だった時に話しが出て、準備委員長にまつりあげられ、木遣、シャギリ、巫子爺の三本柱の正調復活を目的に、平成2年に正式発足した。各方面に奉加帳を持って巡り、太鼓、笛、笙などの音曲道具を揃えた。今も伝統芸の本来あるべき姿の掘り起こし、後継者の育成を見守っている。

片貝まつりについては、四尺玉により全国的に有名となった以上、受け入れ体制に町全体が協力して取り組む必要がある、と考えている。また「ルールを守り、他人に絶対迷惑をかけないことが基本」とおそらく、一部の若者に向けた言葉と思われることをピシャリ。

無類の読書家でもある。昔、菓子を作った工場に7000冊以上の本がビッシリ。購入と同時に整理を心がけている。好きな作家としては芥川龍之介、島崎藤村、夏目漱石、川端康成など。「心に残る一冊は」の質問には間髪入れず「羅生門」とニッコリ。

平成11年度「明るい家庭づくり」「家庭の日」に関する作文コンクール

小学高学年の部教育長賞

天使の翼二十一世紀に向かって

小千谷市片貝小学校　六年　大矢　洋美

看護婦という職業は、病気やけがなどで入院している患者さんにとって「天使」のような存在であると聞いたことがあります。私はこの天使のような職業にあこがれています。どうしてかというと、私のお母さんも天使の一人だからです。前に、

「どうして、お母さんは看護婦さんになったの？」

と聞いてみたことがあります。

「昔、文通していた子が病気で死んじゃったから、それで看護婦になったんだよ。」

と教えてくれました。きっと、お母さんは、（もし、自分が看護婦だったら文通していた友達を助けてあげられたかもしれない。）と考えたのだと思います。

だから、私もお母さんのように病気で困っている人を助けてあげられるような看護婦になりたいと思いました。

私のお母さんは、長岡総合中央病院に勤めています。そこで、内科の患者さんのお世話をしています。

「お母さん、看護婦って楽しい？それとも楽しくない？」

と聞いてみました。そうしたら、

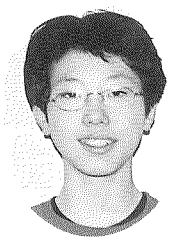
「看護婦は、楽しいよ。夜勤は辛いけど、病気で苦しんでいる人の手助けができるってことは、すばらしいことだよ。」

と教えてくれました。

「患者さんが亡くなった時って、どんな気持ちになるの？」

「そりゃ悲しいね。おじいちゃんおばあちゃんが多いから、自分の親みたいな感じで接しているからね。この前、受け持っていた患者さんが亡くなって、久しぶりに泣いたよ。」

と言っていました。私は、（命って、すばらしいけれど、はかないものなんだなぁ）と感じました。



私が読んだ本の中に「命と友情」について心から考えさせられた『ぼく、だいじょうぶだよ』という本があります。私は、この本を四回読み返しました。この本では、患者さんにとっての天使は、看護婦さんではなくて友達です。人っていうものは、一人では生きていけない。誰かと励まし合い、助け合いながら生きていく。励ましてもらえば、「がんばるぞ。」「負けるもんか。」という力がわいてくる。ということをこの本から学びました。

『ぼく、だいじょうぶだよ』の本では、天使が友達でしたが、それが看護婦だったら…患者さんはきっと（自分の周りには、こんなにも応援してくれる人たちがいる）と不安な時でもがんばることができると思います。

看護婦という職業は、楽しいことばかりでなく、辛いこともたくさんあると思います。けれど、病気の人の手助けができる、かっこいい職業だと思います。私のお母さんは、かぜをひいて具合が悪くても仕事に出かけます。看護婦という職業は、少しくらいかぜをひいても「休みます」というわけにはいかないそうです。休んでしまったら代わりの人はいないので、急患などが入ってくると人手が足りなくなってしまうそうです。前にお母さんが、

「看護婦が、ゆっくり休める休みは、めったにないよ。夜勤明けの休みくらいだよ。」

と言っていました。でも、お母さんは、眠そうなときも、いつも私たちに明るく接してくれます。だから、私は、お母さんが大好きです。

忙しい毎日を送っているお母さんを見ると（看護婦って大変そうだなぁ）と思うことがあります。私は、運動が得意な方なので看護婦じゃなくてクロスカントリースキーの選手になってオリンピックを目指した方がいいかなと考えた時もありました。けれども、「看護婦になりたい」という私の夢は変わりませんでした。外出した時、知らない人なのに具合が悪そうな人のもとにかけ寄って優しく接していたお母さんの姿を見たからです。病気や障害を持った人は、特別な人ではなく、社会との接点を持とうと一生懸命に生きています。その手助けができるすばらしい職業が看護婦だと思いました。

私の将来の夢は、お母さんの後を継いで立派な看護婦になることです。夢をかなえる自信はあります。私には、看護婦をしている母という最高の先生が一番近くにいるからです。毎日、少しずつでもいいから、お母さんに体のことや看護のことについて教えてもらおうと考えています。

もし、看護婦という職につけたならば、お母さんのように患者さんたちにたよりにされるような、すばらしい看護婦になりたいと思います。

もうすぐ、新しい時代、二十一世紀がやってきます。天使の翼をつけた私が病院で働いている姿を夢見て、中学校に進学します。

おめでとう!!

翠心会成人となる

第五十三回小千谷市成人式が去る5月3日(水)約四百五十名（主催者発表）が出席して、小千谷市総合体育館で開催された。

片貝からも今年度の新成人該当者翠心会（61名、会長吉原新）の四十二名が、曇り空で気温の低い中、背広姿と色とりどりの振袖姿で、片貝支所前に集合して友達と一緒に家族カメラマンのモデルになったり、家族や多くの町民の見守る中参加者全員で、一生に一度の二十歳の晴れ姿の記念撮影を行って、会場の総合体育館へと向かった。

わんぱく相撲で浅田淳成君3位

第十四回わんぱく相撲小千谷場所（社団法人小千谷青年会議所主催）が5月13日午前9時から小千谷市総合体育館で開催され、片貝小学六年の浅田淳成君が三位に入賞した。

坪野の春風堂に出前闘牛が来た

小千谷闘牛振興協議会主催（広井一会長）の「出前闘牛」が去る5月12日(金)午前10時から11時まで老人保健施設「春風堂」で開催され、山谷小学校児童も参加し楽しんだ。この催しは同振興協議会が、社会還元事業の一環として、昨年初めて小粟田の里と養護老人ホームの間の広場で「出前闘牛」を開催したところ、保育園児や一般住民が駈けつけ好評だったので、今年も継続している。

この大会は昨年から三年生の部も設けられ、当日会場には市内の小学三年生から六年生までの九十五名の豆力士が、保護者や仲間たちの声援を受け熱戦が繰り広げられた。学年別トーナメント予選を勝ち抜いた八名は、準決勝からまわしを着けた豆力士が土俵に登場、応援団の声援と会場の熱気で盛り上がる中、激しくぶつかり合いの真剣勝負が展開されていた。

片貝小学校からは四、五、六年の各部門にそれぞれ二名が出場。三位に入賞した浅田くんの他に五年生の吉原大樹くんが準決勝で惜しく敗退した。

ハローベイビー

○山口優香（ゆうか）ちゃん（一之町一区）

パパ篤さん（35才）

ママいみ子さん（30才）

第1子長女

平成11年1月21日生

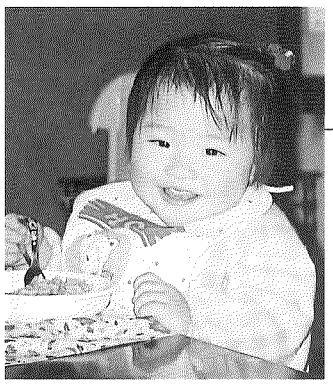
現在の体重10kg身長75cm

Q名前の由来

A優しく、思いやりのある子に、育ってほしいと思い名付けました。

Qお子さんの様子

A人見知りを、ほとんどすることなく、いつもにこにこしているので、みんなに好かれ、かわいがられています。食べることがとても大好きです。

Qどんな子に育って欲しいですか

A夢を持って、何にでもチャレンジして、のびのびと育ってくれたらと願っています。